

RPJ News

2021年 1月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 2021年 新年を迎えて

1. 新年を迎えて 理事長 長野 敏宏
2. あけましておめでとうございます。 理事 寺町クリニック(大分) 太田 喜久子
3. 新年のご挨拶 理事 (社福)町にくらす会 志井田 美幸
4. 年頭のご挨拶 理事 白石 弘巳
5. 新年のご挨拶 理事 (社福)尾道のぞみ会 高垣 孔幸
6. 新年あけましておめでとうございます。 理事 (社福)ひつじ 藤田 安
7. 年頭に思うこと～コロナ禍での新年を迎えて～ 理事 出雲市役所 三島 武司
8. バナナ栽培を地域づくりに 監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男
9. 新年を迎えて 監事 正光会宇和島病院 渡部 三郎
10. コロナ禍でのささやかな実践 実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘
11. 新年のご挨拶 実行委員 (社福)ひつじ 大田 佳代
12. 新年のご挨拶 実行委員 つがるねっと(弘前市) 貴田岡 武
13. 行く先は決まっている、しかし、決まった道はない
実行委員 エスポアール出雲クリニック 形部 周平
14. 新年の挨拶 実行委員 (社福)尾道のぞみ会 橋本 周治
15. 新年にあたって 実行委員・事務局 中野 良治

* 2021年 新年を迎えて

1. 新年を迎えて

理事長 長野 敏宏



2021年が始まりました。小出さんのことから、コロナ対策のこと、気になること
沢山のまま年を越しましたが、なんとか前に進んでいきたいと思えます。

年明け早々の8日、オンラインで理事・監事の皆さんと意見交
換をさせていただきました。とても素晴らしい時間で、また、会員
の皆さんとこのような機会を次々にもっていきたいと思えます。これ
までできなかったことも含め、できることがいろいろありそうで、少し
ワクワクしています。いろいろなアイデアをぜひお寄せください。



皆さんとの再会をととても楽しみに待っています。今年もよろしくお願ひいたします！

2. あけましておめでとうございます。

理事 寺町クリニック(大分) 太田 喜久子

昨年からの新型コロナウイルス感染の拡大にあたり日々の活動は停滞気味ですが、止めないで止まらないで、と皆を激励しつつ歩んできました。

昨年 1 年間訪問診療をしてみて高齢の統合失調症の患者が介護サービスを使い、妄想があっても、入浴や買い物が一人でできなくとも、受診が出来なくとも希望すればいろいろなサービスを使い地域で暮らしている実情を見て、介護と精神科訪問診療を受けて広がる生活が持てる時代の到来を知りました。

また両親死後仏壇が閉じられた家に一人で住んでいる患者がいた。古びた骨壺が置いてある仏壇をどうしていいかわからないと言う一人暮らしの男性もいた。これを見た後は、私は訪問して、まずは仏壇にお参りしてからお話をするようにしている。

外来ではコロナ禍も影響しているのだろうか、死にたいと言う 10 代の方の受診が急に増えて驚いている。子供が急に自死した後お骨を持っている父、列車に飛び込んだ後の娘の衣類を持っている母がいた。これらの体験からこれまでだれも考えつかなかった形の納骨堂に残されたお骨などをお納めできる、誰もが参りできるお堂を作ろうと思うようになった。お堂を作る妄想は、十牛図のなかを歩いている牛にたどり着く。納骨堂の話をしたら僧侶の連れ合いは怪訝な顔で受け流した。

精神科医療と福祉の世界に導いてくださった方々が私の周りから年ごとに去ってゆき、次の世代を担う人らを指導する立場にいるのだがわからないことばかりである。

丑年、一步一步進む年、今年はどこまで歩めるか、歩みを止めない旅を続けてゆこう。

今年も協会のニュースを待ってます。

3. 新年のご挨拶

理事 (社福)町にくらす会 志井田 美幸

新年あけましておめでとうございます。
皆さまとつながっていることが力になります！
今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

2021 年 春



4. 年頭のご挨拶

理事 白石 弘巳

明けましておめでとうございます。

二度目の緊急事態宣言が出たあと、私も病院勤務のほかは、勉強会などが相次いで中止になっています。個人的には、「三密」などに注意すれば実施可能と思うのですが、「万が一のことを考え自粛」と言われると反論できません。これまでの協会の事業も再開までしばらく待たないとならないでしょうから、メンバーリストを通じて参加者を募り、オンライン飲み会などをして、コロナ禍で協会が行うべき企画について、

ざっくばらんに話し合うというのはいかがでしょうか？

本年もよろしくお願い申し上げます。

5. 新年のご挨拶

理事（社福）尾道のぞみ会 高垣 孔幸

あけましておめでとうございます。

昨年新型コロナウイルスの世界的流行に翻弄された一年でした。しかしながら皆様方の多大なご支援とご協力により、1/4 時点で当法人施設での感染報告はされておらず、引き続き気を引き締めて感染対策を講じて参りたいと思います。各施設での活動は、かなり制限され、利用者の方々や職員は例年にも増してストレスの大きい一年となりました。今年はこの見えない脅威が少しでも早い時期に収束に向かうようお願い、例年にも増しての活動が行えるよう、期待しています。

皆様方におかれましてもご健康には十分にご留意され、希望と笑顔に溢れた新年となりますよう心からお祈り申し上げます。

6. 新年あけましておめでとうございます。

理事（社福）ひつじ 藤田 安

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、コロナまたコロナの日々で息つく暇も持てないような緊張状態に常時置かれ、さすがに爆発しそうな自分を感じるようになってしまいました。多分、私だけではないと想像しています。何時かは終息するのでしょうか、まだまだ予断を許さない状況が続くことは覚悟しておかなくてはならないと思っています。

まさか、年頭のご挨拶がコロナ感染不安を抱えながら行うことになるなどは夢にも思いませんでしたので、何時もという日常の営みの中で感じる静かな時間を全身で感じ、また新しい年が始まることを知って、気持ち新たに前進できる日々の到来をじっと、静かに、待つことをしたいと思っています。

老いてなお元気と意地張ってみたいところですが、それは嵐が過ぎ去ってからのことにしたいと思っています。

皆様のご健勝とご活躍をお祈りしつつ、特に弱き人々に対して働きかけを生業とする私たち身を引き締めて日々の生活を大事にしなくてはならないと思っています。

今年も旧年に増して互いの気持ちりが豊かに行き来されることを願っています。
どうかよろしくお願い申し上げます。



7. 新年の年頭に思うこと～コロナ禍での新年を迎えて～

理事 出雲市役所 三島 武司

みなさん明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、私事ですが、市役所生活も残り3年余りとなりカウントダウンに突入しました。また、昨年4月の人事異動で、幼稚園・保育所などを所管する「子ども未来部」から「教育委員会」に異動しました。4月以降、教育委員会で主に取り組んだのは、新型コロナウイルス感染症関連対策と子どもたちの「学びの保障」をい

かに両立させるか、判断し、決定することでした。

出雲市教育委員会は、昨年2月27日にあった国からの全国一斉臨時休業(休校)要請に応じることなく、緊急事態宣言が出るギリギリまで学校を開け続けました。おかげで、卒業式や入学式は徹底した感染症対策の下で実施することはできました。

最終的には、4月20日から5月15日までの実質15日間休校したので、他市に比べて学習の遅れはそれほどではなく、夏休みを多少短縮すれば済む程度でした。しかし、年度替わりの大切な時期に休校したことで、子どもたち特に新1年生に大きな悪影響を与えてしまいました。

また、学校生活も一変し、各種スポーツ大会や修学旅行をはじめとする学校行事は中止や延期が相次ぎ、実施できても規模を大幅に縮小せざるを得ない状況が続いています。運動会の応援合戦などで本来ならリーダーシップを発揮するはずだった最上級生をはじめ、様々な場面で経験を積みなかった子どもたちに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

現在、市内の学校では新型コロナウイルス感染者は確認されていません。これは、それぞれの学校現場で予防対策を徹底された先生方の努力の成果であると思っています。そのうえで、子どもたちが楽しみにしている学校行事などは、中止や延期を前提とせずにやり方を工夫しながら実施していただくことをお願いして来ました。

今年もこの姿勢は変えることなく、これからの長いコロナウイルスとの戦いに臨みたいと思います。



8. バナナ栽培を地域づくりに

監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男

明けましておめでとうございます。

新年早々大雪に見舞われバタバタしました。クリニックに泊まり込む事態が起きたりして協会のリモート会議のことが頭からすっかり飛んでしまいました。申し訳ありません。

さて、コロナに関しては当地でも感染者が増えつつありますが、まだ重大な事態にはなっていません。皆がそれなりに深刻になりながらも、感染防止の対応を意識して行なう中で、当院を利用される当事者の皆さんの不自由は何とか最小限にとどめる日々を送っています。長野先生のご報告の経緯を読みましたが、他人ごとではなく言葉がありません。

それと、長野先生の報告された故谷中先生のちっとも色あせていない言葉の重さを改めて受け止めました。私は10年以上出雲市が主催する「退院支援ネットワーク会議」の委員長をしていますが、長期入院者の地域移行・地域定着活動をしてきた経過の中で、谷中先生が示されているたとえば「住まい」ひとつとっても、現実には40年経ってもそう大きく変わっていないと思いました・・・

さて前置きが長くなりましたが、バナナです。

長期入院していた精神障害をもった人のみならず、いろいろ生きにくさや暮らしにくさを持っている人が大勢いますが、社会とのつながりを求めて働きたいという願望を持っている人は以前と比べたら確実に多くなったと思います。しかし、働きたいという意味はあっても働きにくさを持った人は少なくありません。働きにくさの大きな理由のひとつは、たとえば障害を持った人の働きたいという思いを十分尊重していないからだと思います。どうしても本人の思いより支援者が職場の都合やスケジュールを優先する傾向が強いのです。

そこで私たちは、当事者の思いを受け止め、当事者のスケジュールを大切に
した働く場所づくりをしようと決め準備を始めました。その際これまでの就労支
援の次元とは違い、時代の要請を受け止めた形で、働きやすさを追求した会
社組織を自前で立ち上げることにしました。出雲でバナナ農園を創ります。
「エスポールファーム(仮)」です。



「急に何を?!」「何でバナナ?!」と思われるかもしれません。前号で示し
ましたように、当院は大きな組織改革を行いました。新しい若い理事たちが
夢を語って積極的な動きをしてくれています。詳しくは書きませんが、コロナ禍
でグローバリズムは確実に崩壊しつつある中で、特に農業製品を外国に依存してきた日本は変わらざるを
得なくなります。今後は日本の食料自給率を高めることが大きな課題になると思います。これからは農業で
しょう。

実際に、当地でも農業の分野は立派な地場産業が後継者不足にあえいでいます。廃園になったぶど
う畑のビニールハウスがそこかしこにあるのを見てショックを受けました。そこを借り受け、働く場所を創ろうと
考えたのです。その際、当地では誰もしたことがない農業をしようということになり、理事の一人の発想から
バナナになったのです。私も夢見る人ですから絶対に成功すると確信をもちました。バナナ栽培で地域づ
くりにつなげたいと思っています。

そんな経過で準備を進めていましたが、昨年 10 月号の『やどかり』で、「ソーシャルファーム」という動き
がヨーロッパでは始まっているということを知りました。「ソーシャルファーム」は、福祉就労の場ではない第 3
の雇用の場と位置付けられるものようです。

当院では、「ソーシャルビジネス」の考え方を取り入れて進めてきましたが、すでにヨーロッパでは「ソーシ
ャルファーム」という形で始まっていると知った次第です。

でも、これって長野先生が中野さんたちと愛南町でずっと昔からやって来られたんですね。改めてす
ごいことだと思います。長野先生たちとくらべたら小さいけれども、当院も同じような道を今から始めようと
しているわけです。

早速クラウドファンディングを始めます。近々に皆様のところへもご連絡させていただきますのでよろしく
お願い申し上げます。現在着々と準備をしていますが、詳しくは形部周平氏が書いてくれると思いますの
で、そちらを読んでください。

来年にはバナナの収穫が始まるはず。それ以降は出雲のバナナが当地の特産品のひとつになる
はず。皮ごと食べれてとても甘くておいしいバナナです。「高いけどごえんバナナ(仮)」をキャッチフレ
ーズにしようかなって思っています。

9. 新年を迎えて

監事 正光会宇和島病院 渡部 三郎

新年あけましておめでとうございます。

コロナの猛威は、気候変動・自然災害を重ねて考えてしまいます。

当面、人に近づかず、身を伏せて生き、また立ち上がり、皆さまとお会いで
きたらと考えています。

今年もよろしく願いいたします。



10. コロナ禍でのささやかな実践

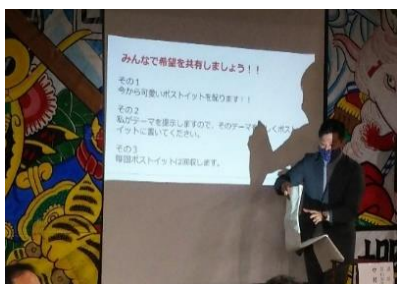
実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘

新年、あけましておめでとうございます。

去年はコロナウイルス感染拡大のため、私が勤務している「NPO 法人むげん」の活動も大きな影響を受けました。

しかし、「今できること、やっておきたいこと」を理事長はじめ、職員、地域の方々で考えました。

その中の取り組みの一つとして、毎年、様々な方々と共に実施してきた「クリスマス感謝祭」の形を変え、各組織の代表者など参加人数を絞り込み、「想いをカタチにする地域の居場所づくり」のテーマのもと「クリスマス福祉研修会」を開催しました。



講師に地元の福祉短大の先生を迎え「HAPPY」をキーワードに、①安心ではなく安堵できる場②アクセシビリティ(利便性)③希望のギフトボックスについて学びながら、参加者全員がそれぞれ「私の幸せ」「好きな場所」「地域の幸せ」「むげんの可能性」をポストイットに書き、それを、短大生が準備してくれた模造紙に書かれたツリーに貼っていく作業を行いました。そこに現れたものは、その時に集った全員の思いや夢がギュッと詰まった、希望のツリーでした。



「みんなが集える素敵な場所になってほしい」「子供から高齢者まで楽しく過ごせる場所」「気軽に入れる、自由に使える部屋がある所」等々書かれており、私の四十数年の実践の中でも特に印象深い集まりになった他、何より今後の実践に向け、職員だけではなく様々な人が共に活動していくための羅針盤を「クリスマスプレゼント」としていただいたように思いました。

地方の田舎のコロナ禍でのささやかな取り組みですがお届けしたいと考えました。

今年もよろしくお願ひ致します。

落ち葉を集め、焼き芋を作りました。美味しさは格別でした。

地元紙に紹介されました。



NPO 法人むげん (射水市棚田・大門) 2020.11.26

■ 障がい者の就労支援

障がい者の就労を支援する事業所を運営し、自立に向けたサポートに努める。福祉に関する幅広い相談業務にも取り組んでいる。2012年12月に設立した。就労支援施設の利用者は約20人。毎朝、ラジオ体操から始め、利用者代表が司会をして朝礼をする。その後、能力に応じて、段ボール加工やニット製品の糸切り、肥料の袋詰めなどの作業に励む。



経験を積んだ3人が、富山市の大手企業で勤めている。この企業には施設から看護師も派遣し、3人の勤務状況を見ながら支援しているのは、全国でも珍しい手法だという。

就労支援施設にコミュニティーサロン「よってかれま」のスペースがあり、地元の棚田、安吉、本田の3地域の住民らと交流しているのも特徴だ。ギャラリーでは、地域住民の書や切り絵、写真などの作品を飾っている。

門田晋理事長（74）は「福祉のニーズは多様化する一方だ。引きこもりや若年性認知症が増え、幅広い相談に乗っている。今後行き場を失った人たちに対応していきたい」と話す。（北崎裕一）

11. 新年のご挨拶

実行委員（社福）ひつじ 大田 佳代

あけましておめでとうございます。

2021年のお正月を静かに迎えました。どこかへ出掛けることもなく、大勢の人と会うこともないお正月でしたが、毎年こんな感じです。

でも、世の中の様子が昨年までとは全く違うので、気持ちは静かではありません。穏やかな日常が戻ってくるのは、まだしばらく先になりそうです。1日も早くコロナウイルスの感染拡大が終息することを祈るばかりです。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

12. 新年のご挨拶

実行委員 つがるねっと(弘前市) 貴田岡 武

みなさま新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、情報が錯綜し混乱の1年であったと思います。私共も見えない脅威と付き合いながら、施設内の消毒や行動制限などいつもとは異なる対応をして事業の運営を行ってきました。例年に比べ利用者・スタッフ共々心身に負担の多い1年であったと思います。またソーシャルディスタンスという距離感の中で人との付き合いが希薄になりつつあり、その中で「生活」をするということを改めて考えさせられました。

この混乱が続く中2021年がどういう年になるかまだ想像できませんが、こういう時だからこそみんなで力を合わせ丁寧に「生活」に向き合っていくことを大切にしていきたいと思います。

本年もみなさまのご健康とご多幸を祈りつつ、また笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。



13. 行く先は決まっている、しかし、決まった道はない

実行委員 エスポアール出雲クリニック 形部 周平

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

タイトルに唐突に使った言葉は、あるテレビ局の取材クルーが南極点を目指すために、見渡す限りの氷河を見て「どこを通過して行くのか？」と現地コーディネーターに尋ねた時の返答です。「行く先は決まっている。しかし、決まった道はない」十数年前、この何気ないやり取りを観ていた高橋院長は、その言葉がとても印象に残り「ケアや支援も同じではないか。もっと深く言えば、行く先に到達したとしても、まだその先には道があるはずだ」と直感的に思われたそうです。新年のような節目には、私たちの(もしかしたら院長ご自身も)慢心や傲りを戒めるために、また、新しい目標を常に持ち続けるために、私たちに伝えられる大事な言

葉の一つとなりました。

エスポアール出雲クリニックは、出雲で初めてとなる精神科診療所を開院して 30 年が経ちました。この間、外来診療、精神科デイケア(重度認知症や高次脳機能障がいを含む)、介護保険(居宅介護支援事業所や小規模多機能)、障害福祉(相談や就労)の機能が、“ふあっと(出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会ふあっと)”の輪の中で一つずつ加わっていきました。その結果、多機能型精神科診療所としての機能を活かし、出雲でその役割を着実に果たしてきました。しかしながら、ここが私たちの到達地ではありません。高橋院長を先頭に、まだまだ出雲の精神科医療、福祉を牽引していく気概を持って挑戦を続けたいと思います。

さて、時代は変化しています。障がいを持たれた方へのサービスは確かに充実してきました。『障がいを持たれた方の就労支援』も障害福祉サービスの枠組みだけで A 型、B 型、移行と 3 種類があります。しかし、穿った見方をすれば、結局は病气(診断)や障がいによってすみ分けられた選択です。勿論、そうしたサービスが悪いわけではありません。それによって、行く場所ができ、その方の暮らしが豊かになったことも確かです。しかし、綺麗ごとかもしれませんが、障がいを持って生きていくことは、障がいや病气(診断)、制度やサービスによってすみ分けられた暮らしではなく、社会の中で生活者の一人として統合された暮らし、存在でなければなりません。ただ、今の社会はそれを受け止められないから、制度ができて障害福祉サービスなどが充実していくのでしょうか。そのような現実、ソーシャルワーカーとしてできることはないのでしょうか。



前置きが大変長くなりました。ここから、RPJNews12 月号で高橋院長から仰せつかった“私たちの新たな挑戦”についても触れます。

前述のように、私たちはこの時代の流れと出雲の地域課題は何かと改めて見つめ直し、多機能型精神科診療所を基盤としたソーシャルビジネス、ずばり“山陰初の大規模(無農薬で国産の)バナナ農園”を立ち上げます。総面積は約 5,000 m²(約 1,500 坪)です。私たちのバナナ農園は、障がいの有無に関係なく、認知症の人、引きこもりの人、自分に自信が持てない人、夢を持たない人、何かしら生きにくさを持っている人がいきいきと働ける場所になります。

なぜ、バナナ? 出雲で?と思われたかもしれませんが、奇をてらうわけではありません。どこにでもあるバナナが私たちの食卓から消えてしまったら、と想像したことがあるでしょうか? 私は大変困ります。子供たちが大変お世話になっています。そういうご家庭も多いのではないのでしょうか。それほど私たちにとって身近なバナナですが、全体の約 96%は輸入品で『バナナ 危機』と検索すると人知れずにあることに驚きます。ご関心のある方は一度検索を試してみてください。さて、出雲で栽培できるのかという課題がありますが、岡山県にある農業法人株式会社 D&T Farm の凍結解凍覚醒法®という栽培技術を施すことで、作物の環境順応性(耐寒性や耐暑性)が高まり、山陰のような平均日照時間の少ない地域でも無農薬でバナナを栽培することができます。昨年からの検討に検討を重ね、その技術を活かして、出雲初、いや、山陰初のバナナ栽培に挑戦することを決意するに至りました。

「よし、方向性が見えた」と、まずは農地探しを始めました。外来にポスターを掲示し募集しましたが、思いのほか反響があり、10 を超える農地から(実際にはもっと多くの声掛けをいただきましたが、当院からの距離などを考慮して事前にお断りしたケースもあります)最終的には、3 人の地主さんとのご縁に結ばれ、合わせて約 5,000 m²(約 1500 坪)という大きな農地を貸借することができました。ただ、この農地は耕作を放棄した荒畑です。鉄骨むき出しの朽ちたハウスに雑草が高く伸びきっている始末で、これらを農地として私たちの力で蘇らせなくてはならず、正に未踏の領域です。そこからは、ハウスの解体方法を地元の農業

者から学び、工具を揃え、朝の仕事前、診療や支援の合間、休日を利用して少しずつ少しずつ取り組んで、18棟あったハウスもやっとのことであと2棟となりました。気が付けば決意をしてから半年を費やしていました。この後も、解体した鉄の始末、草刈り、盛り土、水の配管など怒涛の工程ですが、周りのスタッフと一緒に地道に取り組んでいきます。そうして、農地が蘇るとD&T Farmでの3ヵ月に及ぶ研修、バナナ用のハウス建設が進み、今年の秋頃には完成を目指します。

しかし、最大にして最後の難関があります。それは、資金づくりです。何しろ、5000㎡を利用して、バナナ専用のハウス(間口8m×奥行80m×高さ5m)5棟を建設し、専用の培養土、凍結解凍覚醒法®を施した耐寒性バナナの苗が必要です。それに、周辺の設備等を加えると費用総額は1億円を超える見込みです。そうした資金づくりには助成金の申請も進めています。それよりも私たちの想いの込められたこの挑戦を、地元出雲の人にも、全国の人にも知ってもらいたい、できることなら応援してもらいたいとクラウドファンディングの活用を思いつきました。RPJNews新年号が発行された頃、間もなく公開する予定ですので、Good Morning または CAMPFIRE というサイトを是非チェックしてみてください。そして可能な範囲で構いませんので、私たちの挑戦を身近な人やお仲間にも広めていただけないでしょうか。よろしくお願いいたします。

さて、私たちのバナナは、山陰初の出雲の特産品として全国に流通します。きっとたくさんの方の目に留まり、なぜ医療機関がバナナを?と不思議がられることでしょう。精神科の医療従事者である私たちが農業を始めた意義をたくさんの方に知ってもらい、社会が変わっていくことを望んでいます。そして就労をテーマとした本物の共生社会の実現を出雲の地から発信していきます。

最後に、私たちの挑戦が本稿のタイトルにもした「行く先は決まっている、しかし、決まった道はない」という言葉を体現することをお約束して、この続きは、RPJNewsなどで時々ご報告させていただければと思います。またコロナ禍が去って、国内の往来が正常化した暁には、本協会のリフレッシュセミナーなどを通じてお披露目できる機会を大いに楽しみにしております。



14. 新年の挨拶

実行委員 (社福)尾道のぞみ会 橋本 周治

新年になりました。しかし、1都3県で緊急事態宣言が発令され、「おめでとうございます」とは言えない状況が続いています。日々更新される感染者数の多さに、最前線の医療関係者の方々の疲弊はいかばかりか…。本当に頭が下がる想いです。

1日も早い終息を願っていますが、ワクチンをいち早く導入したイギリスではコロナの変異型もみつき、コロナとの戦いはさらなる長期戦になりそうです。

「With コロナ」という言葉を耳にしますが、友人たちは「とんでもない。『No more コロナ』だ」と口にします。私も同感です。

先が見えない日々が続きますが、今はとにかく「大切な人たちの健康と命を守る」ことを最優先に行動しようと思います。いつの日かコロナが終息し、皆様と食事でもしながら談笑できる日を夢見て。

さあ、頑張ろうぜ!

15. 新年にあたって

実行委員・事務局 中野 良治

新年明けましておめでとうございます。

去年は新型コロナ関連のことで1年がいつのまにか過ぎ去ってしまいました。

現在も収まる気配はなく、いつまでこの状態が続くのか…。去年は協会の行事もストップしてしまい、皆さんとお会いする機会も無くなってしまいました。

昨夜、初めて zoom を活用し協会の役員会が開催されました。オンラインでの報告会や海外とのやりとりが出来ないかなど、新たな試みも検討されています。今年は皆さんと直接お会いすることは難しいかもしれませんが、オンライン上でもお会いすることを楽しみにしております。これがこれからの日常になるのかもしれないね。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

愛南町は久々に大雪です。



—編集後記—

新年あけましておめでとうございます。今回は協会設立20年目の節目にあたるという事で協会のルーツについて少し書きたいと思います。協会は、やどかりの里(さいたま市)のヴィレッジセミナーツアー参加者が、「折角できた絆をこれからも大切にしていきたいよね!」を合言葉に2002年4月活動を開始し、NPO法人化を目指しました。RPJNewsは、その時活動の情報紙としての発行を開始しました。約1年後の2003年5月無事法人格を取得、活動が安定してきた2004年1月RPJNewsを情報発信の手段として新装発行することを決めました。そしてメインテーマを中心に全国の会員から届けられる各地の短信や事務局のお知らせ等の提供を続けてきました。2021年活動開始から20年目に突入します。最初は体裁もままならず、印刷・発送は志井田理事の組織に依頼してのスタートでした。その後暫くしてから事務局での自主印刷・発送が出来るようになりました。そして2016年15年目を機にパソコン・スマホが普及したことを踏まえWeb発行へと踏み出し、今日を迎えることが出来ました。その間に谷中輝雄初代理事長と仁木美知子前理事長という協会設立の2本柱を亡くしましたが、長野理事長を軸に役員・実行委員が一丸となってコロナ禍を乗り切りながら新しい協会活動を見出し、会員の皆様に「何か」を届けられる組織になると確信しております。会員の皆様におかれましては、本年も相変わらずのご支援・ご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。(仁木)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119